

第二回 桜町再開発事業における新たな集客施設整備検討委員会 議事概要

【日時】 平成25年9月2日（月）10：00～11：45

【場所】 熊本市議会 議会棟2階 予算決算委員会室

【出席委員】 全20名のうち17名出席 ※以下、敬称略

(委員長)	熊本大学	理事・副学長	両角光男
	株式会社アドコム（熊本県広告業協会会員）	常務取締役	後藤亮一
	一般財団法人熊本国際観光コンベンション協会	専務理事	齊藤寛
	在熊マスコミ社長会（熊本放送株式会社 取締役兼総務局長）		杉光定則
	熊本市中心商店街等連合協議会	会長	武本純一
	熊本大学工学部建築学科	准教授	田中智之
	熊本県立大学環境共生部居住環境学科	准教授	西英子
	熊本大学	理事・副学長	原田信志
	熊本経済同友会	事務局長	藤好清隆
	一般社団法人日本ディスプレイ業団体連合会	副会長	瀧田俊郎
	熊本城下のまちづくり協議会 桜町地区会議	会長	吉丸良治
	熊本市議会	市議	藤岡照代
	熊本市議会	市議	津田征士郎
	熊本市議会	市議	下川寛
	熊本市議会	市議	田辺正信
	熊本市議会	市議	江藤正行
	熊本市役所	副市長	牧慎太郎
※欠席委員	熊本学園大学商学部商学科	教授	宇野史郎
	熊本商工会議所	専務理事	松山正明
	桜町・花畑周辺地区まちづくりマネジメント委員会会長 （熊本市都市政策研究所所長）		蓑茂壽太郎

【議事概要】

1. 開会

2. 審議スケジュールについて

(委員長) 本日の議題としては、計画の案の審議をお願いするが、審議に入る前に、ご相談、お願いがある。前回、事務局の方から示したスケジュールでは、今回皆さんから意見をいただき、手を加えてオープンハウスに出すという予定の説明があった。その後、結果を踏まえて、改定案をその後の委員会で審議するとのことだったが、委員長にご指名いただき、その後プランを見させていただいた。委員会でも指摘があったが、もう少し案そのものを練る、ここで皆さんと意見交換をする必要があると感じた。そこで、事務局と協議を行い、本日の案について説明し、ご意見をいただき、さらにもう一度、そこで出た意見をもとに案をつくり、それからオープンハウスに出すということで、オープンハウスの前の段階で、もう一度委員会を増やすことにさせていただきたい。それから、もう一つ、施設の開催時の開催件数、入場者数、経済効果についてもご議論いただくというふうにしていたが、やはりプランが動くと掴みにくいということで、3回目の委員会でご審議いただくという形にさせて頂きたい。10月12,13日の大賑わい市でオープンハウスで案を提示するということがあったが、今のようなことで、第3回の委員会の後で、機会を作ってオープンハウスを行いたい。ご了承いただけるか。

(他 委員) 異議なし。

(委員長) そのような形で取り扱う。それでは、資料1から資料7まで説明をお願いする。

3. 審議：資料1～資料7

(事務局) 資料説明

(委員長) 初期案が、A案ということで作った。現行の条件の中でつくったらこのような形になる。資料3と資料7を見比べるとよい。資料3を見ると、A案が基本形だとすると、メインホールが面積的に厳しい案になってしまった。楽屋やホワイエという客がたまるスペースが狭い。それを解決するために、B案、C案、D案が出てきた。B案というのは、基本的に建物の面積を増やした。壁を外に張り出していった。A案の形のままで建物を広げていった。C案は、舞台の裏側にあった多目的ホールが位置的に使いにくそうだということがあり、それを諦めたらどうなるか。舞台裏にあった多目的ホールをやめて、そ

の分、ホール全体を多目的ホールがあった部分にずらすことで、楽屋の問題やホワイエの問題が解決できたという話。ただし、多目的ホールというものが、そもそもの計画にあったので、その機能を失ってよいのかどうかという点が議論になる。それではということで、BとCを受けた形で、多目的ホールをメインホールの客席の下に入れ、建物的には1層増えた格好となるが、そういう形で解決した案。楽屋、ホワイエも確保できる。多目的ホールも確保できる。ただし、全体的に床面積が増えるため、コストが増加する。B案も似たところがある。多目的ホールの機能を確保するのか、それとも諦めるのか、あるいは、多目的ホールも作り、拡張させる、それにより、その分費用がかかる。その辺りをどのように考えるのか。その辺りが現段階における検討課題となった。コストの話は、資料7に取得費とあるが、いわゆる建設費と考えて頂ければいい。A案を基準に考えると、B案は10数億の増加、C案は多目的ホールを減らしているので何とか収まるだろう。D案は多目的ホールがあり、別のフロアに移していくということで、その分ゆったりしているが、面積が増えるので予算が増える形となっている。なお、説明があったが、この費用はあくまで延床面積に他都市で見られる平均的な単価をかけただけであり、あくまで目安。実際のコストは、きちんと設計がある程度進んだ段階でないとつめられない。この数字はあくまで目安ということをご理解いただきたい。

このような形で案を整理していただいたが、各案の持っている特質等を皆さんからご意見を頂きたい。資料3で、メインホールを上層階に配置する課題というのが、前回の委員会でも提示を頂いた。その後、事務局で再度確認をしているが、再開発計画全体の中で、交通センター部分、バスセンターの部分が、平面、1層で処理をしているということで、ホールの部分、他の部分も含め少しずつ圧縮されて、縦に積むという案になってきている。交通センター部分を1層でやらなくてはならないと考えるに至ったという背景について説明をもらいたい。また、現段階で別の案を考えているという説明もあった。メインホールとイベントホールを積み重ねた形で建築的に解決する方法で、現段階で代案を提示させていただいている。前回の委員会で質問も頂いているので、市の方で、現段階での検討結果、これまでの経緯を説明してほしい。

(都市建設局) バスターミナルの検討経緯ということで、交通政策総室からご報告させていただく。バスターミナルについては、昭和40、50年代の最も利用者が多い時期に作られた。当時西日本一で、発着バースが26バース、待機バースで36バース、全部で62バースある。当時西日本一、最大級のバスターミナル。そ

れを出来るだけコンパクトに、再開発にあたってするということと、もう一つ、ターミナル機能の維持、改善ということが大きな目標で、事業者と検討を進めてきた。それで、シンプルにするための複層案と平面案を当初から両方考えてきている。ただ、シンボルプロムナードを歩行者天国にするために、今回辛島側、桜橋側の2箇所が車両の進入口となるため、複層でターミナル機能を維持するための車路を確保するのが非常に困難になる。無理やり安全を確保しながら、車路を確保させるとするとデッドスペースが出来る。一階平面で処理する方がよい、また、複層階というのは、天神のバスターミナルが挙げられるが、天神では都市間バスが上層階にあり、路線バスは平面階にある。複層階である場合は、分ける形になる。熊本市の場合、都市間バスは2バースで処理している。それくらいで処理できるため、基本的に交通センターの中心は路線バスになる。路線バスを複層にするよりも平面で処理した方が利用者にとって非常に利用しやすい。車路の確保が困難である、利用者の面から利便性を高めるために平面で処理するという2つのことで、平面の案になった。平面の案にするにしても、再開発の調和が重要で、利用者にとっても出来るだけコンパクトにターミナルを作り上げることが重要と考える。熊本駅の東A地区の新たな駅前広場をサブターミナルと位置づけし、役割分担を図っていく中で、バスバースについては、一割以上減らして、コンパクトにして、1階案で整理したところ。

(委員長) コンパクトなバスターミナルに変えていくということで検討した結果、頻繁に出入りがある路線バスが多い。上手く処理していくために車路をたくさん作るということは、円滑性を欠く。あるいは車路、斜めの道路を作ると、デッドスペース、使えない床が増えてしまう。その辺りを勘案して、平面処理で行くのがベストだということで、再開発全体計画のなかで進めている。結果的に、MICE部分の敷地が窮屈になってきたことによって、メインホールとイベントホールを平面で置くのは厳しそうだということで、縦に重ねた案で、建築的に解決する方法を模索していこうということで話が展開している。前回も事務局から説明があったが、荷捌き場を上手く工夫する、あるいは大型のエレベーター、垂直動線を上手く建築的に処理することで出来るだけ障害を減らしていこうということで、今日の説明案は出来ている。なお、さらにイベントホールを地下に入れて、メインホールを一階に置くという大きく変えた案も今後検討してみたいということだった。災害動線についても、屋上駐車場にホールから行けるように処理をしたいという説明だった。A案をベースにB,C,Dが出来たということで、この案についてお気づきの点、質問、ご指摘を頂きたい。

- (委 員) 私たちは、基本構想の中では、3000人収容できるコンベンションホールということで聞いていたが、いつの段階でメインホールが2000人になったのか、経過を踏まえて報告してほしい。
- (事 務 局) 最初の現行案については、あくまでメインホールというものを2000人の固定席で考えている。多目的ホールと一体型で利用することによって3000人を収容することを目指していた。これは、基本構想の中の3000人収容から若干変更になって、多目的ホールとメインホールを一体的に利用することによって3000人収容を目指しているところ。
- (委 員) 説明は判ったが、私どもが見た当初の部分では、一体的に使われるような部分で、確か聞いていたように思う。今回の部分は、今言われた話で理解できるが、そこらへんはどうか。
- (事 務 局) 基本構想の段階では、あくまで3000㎡のフラットな空間に可動席を設けて、3000人収容としていた。椅子を除けば3000㎡の展示も可能にするというのが基本構想の案であった。昨年の11月の段階の新たな方向性の中で、音楽ホール等にも対応するために、2000席の固定席ホールと多目的ホールを一体的に利用することで3000人の収容を可能にしたという案を示したところ。
- (委 員) 11月の段階で今のような話ということだが、私は聞いていない・・・判りました。
- (委 員 長) 新聞等にも1月ごろ出されたときには、2,000人のホールと舞台の後ろに1000㎡のホールという絵が描かれていたと記憶している。
- (委 員) B,C,D という案が示されたが、どれがいいということではなく、過渡期だと思う。いろんな知恵が出てくれば、いいものに集約出来る。サンアントニオのMICE施設を見た。すばらしい、使いやすいと思って見てきた。どうしても見るときには大規模コンベンションを運営する側の目で見えてしまうが、非常にホワイエが広い。ホワイエが広い中にいろんな席数のホールがあり、そのホールに隣接してスタッフの資料を置く場、分科会をする場、会議室が配置されており、すごく使いやすいという目で見えてきた。運営側の目で見たとときに、全国の招致合戦になっていくと、運営側が採点をして廻る。私自身もそういう採点に幾度も参加したが、バックヤードが狭い、使いにくい会場というのは点数が下がる。ホワイエが狭い会場も点数が下がる。決定する段階ではいろんな政治力とかの別要素もあるだろうが、表で戦って選ばれる、勝てるだけの施設になるためには、ホワイエの広さとバックヤード、楽屋、スタッフルームの使いやすさが非常に重要になる。いろんな案が出ているが、ホワイエはなるべく広く、バックヤードもなるべく広くしていただきたい。いろんな制約があると、メインホールの席数の問題となっていくが、運営側

の経験則からすると、2,000席を超えたメインホールがあると、次に席数が要求されるのは、恐らく6000、7000というオーダーになってくる。2000を超えた場合、3000席、3000数百席というのにこだわる必要は無いと感じている。ただ、席数を決めるのは、コンサートのペイラインが何席にあるのか、その辺で考えていけばよいと思う。

前回の案を見た時に、バスターミナルをコンパクトにという話があったが、大規模なコンベンションを行うときに、必ず運輸の問題でシャトルバスが付随してくると思うが、そのシャトルバスのブースが取れていないのが気になっている。必ず交通渋滞の緩和という時も含めてシャトルバスのブースを考えなくてはならないと思う。説明を聞いているとバスターミナルがあることによってMICE施設がかなり制約を受けている。となると、ショットガン方式の採用等でバスターミナルが本当にここに必要なのかどうか。都市間バスは当然MICEということを見ると必要だが、路線バスについては、これだけの物を作るので、熊本市の公共交通体系の根幹から見直すような形で、それも併せてバスターミナルの問題も検討していったいいのではないかと考えている。

また、産文会館を閉鎖し、解体して広場にするに付随して、あそこにあった中規模ホールの代替機能をこの中で持つというような話もあっていたが、それがイベントホールだけで果たしていいのか、可動席、固定席も含めて、中規模ホールの機能というものをどこにこの中に持ってくるのかを考えておこなうてはいけないと感じている。現段階の指摘として申し上げておく。

- (委 員) この前の意見の結果として、今回出されたが、ここまではD案ということになるが、この前出てきた意見を網羅されて回答が出てくる分はE案として考えてよいか。
- (事 務 局) 前回意見を頂いたものについて、上層階にメインホールを配置することによる搬入の問題について、大型エレベーターでの対応などによって改善を図ったもの。若干、課題整理等がまた済んでいないものについては、第三回目の中でコメントしていきたいと考えている。
- (委 員) 今のは、答えのうちの(資料3「対応」の「搬出入における課題解決のための対応案」の中の)①の部分で答えられたが、聞きたいのは②の部分。これは調査を委託業者に依頼中ということだが、イメージ的には判るので、当然、これからの論議の中に入ってくると理解しているが、そういう意味でE案と考えるよいか。
- (事 務 局) 新たな案として次回提示させていただく。
- (委 員) E案として考えてよいかをお聞きしている。

- (事務局) はい。
- (委員長) たぶん、上の方の形もあるので、E案一つになるか判らないが、新たな発想の元につくる案、要はホールを一階に降ろすとなると、建物の構成がだいぶ変わる。それによって、他の国際会議場とかいろんな所に波及効果があつて、その中でもバリエーションがあると思う。今後E案も準備して、第三回にかかるとなるが、そのベースになってくるB,C,Dの考え方を出来るだけ整理しておきたい。
- (委員) 図面では読み取れないのでお尋ねしたいが、必ず多目的トイレが必要と思う。最近の学会でも託児があつて、参加者が小さい子をつれていくこともある。主催者側に介護の方がおられるとか、そういうトイレが必要になることが必ず出てくるので、必ず施設に入れてほしい。
- (委員長) トイレ設計の時に、大いに考えなければならない。
- (委員) 先ほど他の委員からホールのペイラインというのが、2000席でいいかどうかという話があつたが、九州一円コンサートを行っているキョードー西日本やBEAに聞いたところ、福岡サンパレスは2300人入るが、人口比率的にいうと2000がちょうどいい。2000席で満杯になるアーティストと1500、1700というアーティストもいる。2000席以上の2500、3000は空き席がすごく多くなるので、比率的に言えば2000がちょうどいい。実際九州のほかの県を見ると、長崎、大分、佐賀、宮崎、鹿児島もちょうど2000クラスになる。
- (委員長) メインホール客席数は2000がちょうどいいという話があつたが、今用意されているB,C,D案は、2000を超えて収容するような臨時的措置が出来るようなことを考えているのか。
- (事務局) 今のところメインホールを2000席ということで固定席を考えているが、客席をどれくらいの広さにするのか、併せてそれ以上の対応をするのかについては、今後検討させて頂ければと思っている。
- (委員長) 計画的な、技術的可能性としては、舞台、演劇のようなパフォーマンスをすると、舞台は奥行きがあるが、コンサート、講演会的なものであれば舞台はもう少し小さくてもよい。そうすると、舞台を動かして、その部分に臨時の客席を置くとかそういう形での対応は、計画として今後考えうると理解してよいか。
- (事務局) はい。
- (委員長) 費用との関係があるだろう。
- (委員) 一点確認したいが、私はコンベンションを開催する中で、3000人とか大型のコンベンションの話が出るが、1000人くらいの形が一番多い。それを開催するとき、現在熊本の場合は、文化施設をコンベンションとして活用すると

いう方法しかない。市民会館とかの場所を会議に使っている状況だが、使い勝手が非常に悪いというのが、先ほど委員からも指摘があったが、評価が下がる大きな要素。今回は、コンベンション開催をメインに持ってきて、稼働率を上げたり、より効率的に使うためにも併せて文化施設として使えるという発想に私たちは期待している。

多目的ホールとメインホールを一体的に使うというのがあったが、固定席と真ん中に舞台があつて、その背後に多目的ホールがあるような設計になっているが、そうするとこれは一体で使うということは構造上難しいのでは。舞台というのが真ん中にあるということが、このままの構想なのか。それとも舞台の取り外しが出来るのという構造なのか。もう一点、コンベンション開催の場合に、多目的ホールが無いコンベンションホールというのは、機能的に意味の無いホールになってしまう。C案とかは多目的ホールを外すという発想で書いてあるが、そうするとこれは文化施設としての活用をメインで考えている施設ではないかと思えない。ぜひ、多目的ホールというのは、コンベンション開催時に欠かせない施設ということで捉えてほしい。限られた場所で文化施設とコンベンション開催の施設は、目的がぜんぜん違うので、同一施設の中で満足するというのは難しいと思う。どちらに主を置いていくのか、どちらを副次的と考えていくのかを少し整理しておかないと、どちらにも目的が外れてしまい、使い勝手がどちらも悪くなってしまう。

(委員長) 事務的のほうから多目的ホールの考え方を各案についておさらいをお願いします。

(事務局) 資料Aの7ページになるが、まず上の方(北側)にメインホールの2000席、固定席を配置する。その下(南側)に多目的ホールの950㎡となっているのが、多目的ホールを配置するという案になっている。これを一体的に使う案としては、舞台の裏の遮音シャッターというものを開けることにより、ステージ上に、舞台上に椅子を並べて、多目的ホールの南側に仮設スタンドを組むという形での3000人収容というものを目指している。これは福岡の国際会議場と同じものである。もしくは、真ん中を舞台にして、両方から見て頂くというものも可能というのが提案のもの。それと、多目的ホールについては、先ほどの課題整理でも申したが、どうしても溜りというホワイエの充実が必要と考える。その中でポスターセッションが開催できるし、上のほうにホワイエを配置することによって熊本城の眺望も確保したいと考えている。ホワイエの前で、ラウンジ的なもので軽食の提供も考え、今回提案させていただいた。

(委員長) 多目的ホールが無い案というものがC案ということだが、その他のものでは

多目的ホールが用意されている。B 案は舞台の後ろに置くことで、一体的な利用が可能になっている。ただし、ホワイエが狭くなって厳しい。さらに、説明ではなかったが、舞台に椅子を置いて一体として使うとなると、メインホールの客席から見ると、多目的ホールの中に舞台があるが、ものすごく遠くになってしまうので、必ずしも使いやすい、見やすいかどうかは判らない。音が聞こえてプロジェクターで写せばよいということであればよいが、制約は受けてしまう。

(委 員) 今の意見に類似するが、最初案を見たときは、舞台の後ろに多目的ホールがあるというのは、会場としては使いにくいだろう。むしろ無い方がよいだろうと思う。ずらしてホワイエを広げるという案が出ているが、これくらいホワイエが広がると、会議場としての体裁が非常に良くなる。多目的ホールがない分、海外の会議の場合には、ポスター展示に使うが、広いホワイエを使って簡単な軽食を食べながら行うこともでき、海外でもよくある。そこから熊本城が見えれば、さらに熊本の特質を出せる。その案の方が、熊本の会議場としては良い気がする。ただ、ホワイエだけで多目的の目的を満足するかというと、不十分なところが出てくるかもしれない。そういうことで D 案が出てくるが、この場合問題になるのは、天井高が下の会議室も多目的ホールも低くなる。産文の会議室は非常に使いにくかった。何故かと言うと天井が非常に低く、最悪な会議室だった。会議をやるには、十分な天井高があって、気持ちよい感じで会議がやれるようなシステムをとらないと、せっかく作ってもむしろ使いにくい。私としては、ホワイエを広げる案には賛成だ。

(委 員 長) 今の多目的ホールをメインホールの下に入れる D 案について、ご意見を頂いたが、天井高の指摘があったが、どうだろうか。この図を見るとやけに低く見える。

(事 務 局) D 案については、多目的ホールをメインホールの客席下に押し込んだように見えるが、このフロアについては、他の会議室、国際会議ホールなど、その辺りについても検討させていただいて、十分な天井高が取れるようなレイアウトを考えていきたい。

(委 員 長) 今のご指摘ということで、天井高に気をつけなさいと、もう少しつめさせていたきたいと思う。

(委 員) 今回、多目的ホールがどこにあるというのが大事な話。最近の建築計画のトレンドというか、全国的に見ても、リハーサルホールとか多目的ホールをなるべく人のいる場所、アクセスの良い場所に、表に出して来るとというのが、一番稼働率を上げる条件といわれている。例えば、(岩手県)北上市のさくら

ホール、(富山県)黒部のコラーレとか、リハーサルホール、裏方を表に出してきて、ほぼ100%の恐るべき稼働率を出している事例もある。そういう意味では、今回の多目的ホールが、一つの考え方として、地下のコンベンションとホールの間にあった方が良さだろう。もう一点は、D案のようにホールの下に入れるということがあるが、コストの関係で厳しいということであれば、A案の2階のエントランスがあるが、ここに非常に大きなエントランスがあるが、この施設では2階がメインアクセスになると思う。シンボルプロムナードからのコンコース、一階のバスターミナルからのアクセスを受け止める、行動の基点になる場所になる。例えば、この場所にスーパーマルチユースとか、例えば可動間仕切りを用いるなどの方法があるが、物産市をやったり、講演会をやったりいろんなことが出来る。最新の箱とか、スペースを作って、これを売り物にしていく。使い方がよく、個性的であるという表現になると思うが、そういうものを人が集まる場所に作っていくというのが代案としてあると思う。あと、ポスターセッションをメインホールのホワイエを広く取っておいて、熊本城が見える場所で出来るとか、いくつかマルチユースが出来る場所を、少し余裕をみて作っておくというのが、全体の考え方としてあったほうが良いと思う。

(委員長) 今のご意見を確認させていただくと、A案の4ページの2階の平面図である2Fエントランスとあるが、630㎡と書いた破線の部分がある。この部分を多目的ブースに使うというご提案。さらにメインホールのホワイエが広がるのであればそういうところを使えばよいと。

(委員) そういうことです。

(委員長) これはA案しか出ていないが、各案共通か。

(委員) そうです。断面図を見ると、会議室のレベルが階高8mくらいあり、平面的な規模でいうと8mはちょっと大きい気がする。その階高をもう少し2階に回してあげると、先ほどの天井高がもう少し高いマルチなベースが出来る。

(委員長) 今の論点として、多目的ホールはそこで代替できるということか、それとも多目的ホールを作るにしても、そういうマルチユースを作ったほうが良いという提案なのか。

(委員) 前者です。多目的ホールに当てるということです。

(委員長) 多目的ホールがもし出来ない場合はこういうところで代替していけばよいじゃないかと。

(委員) いや、積極的にこの2階のスペースに新しい形の多目的ホールを作った方がいいかという提案です。

(委員長) B案とD案では多目的ホールを置いているが、それはそれで生かした方がよ

いということか。

(委 員) いや、ちょっと使いにくいという問題点は指摘した。

(委 員 長) そうなると、C 案の中で今言ったような代替スペースをきちんと取ったが良いのではないかという説明と理解してよいか。

(委 員) そうです。

(委 員 長) C 案は多目的ホールが無くなっているわけだが、2 階のエントランス部分を多目的ホールの使い方が出来る、あるいはメインホールのホワイエが使える。多目的ホールというのは、人がよく通るところにマルチユースがあった方がよく使われると。C 案の改善版と理解してよいか。

(委 員) そういうことです。

(委 員) 確認をさせて頂きたいが、資料 3 で、まだ検討中ということで回答が出来ないとは思いますが、災害時の観客動線の問題解決だが、ホワイエからの一般駐車場屋上へということで、北側の駐車場へということでよいか。そうすると屋上から下に降ろすという考え方ということでいいか。

(事 務 局) はい。

(委 員 長) 恐らくは今後の協議だと思うが、このホワイエが魅力的で、もし駐車場の屋上がなんらか連続して使えれば、それ自体が魅力的なものになる。避難通路としての期待もあるが、そういうことも考えたいということだと思う。ただ、駐車場を作る側からすると、屋上も駐車場にしたいと思うので、その辺りは全体計画の中で検討していくことになる。いずれにしても、避難通路としては、確保したいというのが事務局の考え方になる。

(委 員) イベントホールは一階にあるが、間仕切りはあるのか。

(事 務 局) 1 階のイベントホールについては、3 分割くらい出来ないかというのを現在想定している。

(委 員) 前回の会議で出たかもしれないが、大きなコンベンションを想定すると、市民会館など既存施設と近い位置にあった方が効果的でないか。見える施設というのが必要になってくる。今後知事、市長も州都を目指すということをやられているので、州都としてふさわしい設備、使いやすい動線を含めて、利用者が中心商店街に行きやすいようにも考えて頂ければと思う。

(委 員 長) 全体計画の大きな枠組みの中で計画が進んできて、MICE としては、敷地の南西に位置づけられている。今の提案は、北東の方ということと思うが、今の大きな枠組みの中ではそういう形で来ている。今それを変えるのは少し厳しいと思う。

(委 員) 細かい話になるが、確認したい。一つは、搬入エレベーターの高さはどの程度になるのかを今度教えていただきたい。物によっては、高いものも持込む

可能性が高い。また、コンベンションも含めてだが、番組等を作る際、機材の搬入ということで考えた時、中継車と繋ぐケーブル、この通線孔を上、特にメインのコンサートをやるとなった場合に、そこまでの通線孔を必ず確保していただきたい。最低でも光ケーブルを 7,8 回線引けるような、あるいは別に音声ケーブルを繋ぐ、あるいは地下に駐車場に中継車を停めるとすると、上のホール、会議室の部分との分岐の配置盤といったものが必要になってくる。特に上の方から金峰山の方に電波が飛ばないと、中継が出来ない。そういう状況が生まれるため、その部分は設計の段階の中で入れてほしい。

- (委員長) 技術的な問題が今後出てくると思うので、関係者との協議は十分に行うこと。
- (委員) 先ほどの説明の D 案だが、これが 4,5,6 階の平面図があるが、この多目的ホールとメインホールを全部併せて 3000 名ということになるのか。多目的ホールは別なのか。
- (事務局) 多目的ホールを下の階に下ろしているので、メインホールでは 2000 人収容ということしか出来ない。先ほど委員長からあったが、ホールでの可動席、椅子を並べるとかを検討を重ねながら、3000 人というものに近づけていきたい。
- (委員) 最初は市民会館が 1800 あって、現在 1500 いくつ。今回 2000 で、当初 2000 から 3000 名というものがあれば。収容人数としては 2000 名くらいか、最初に図面を見たときに真ん中の遮音シャッターがあって、2000、3000 という形で遮音シャッターを開けたことによってきちんと 3000 名が出来る図面を見たが、それがなくなったのか。
- (事務局) A 案ということで、現行案で示させていただいている。
- (委員) そのときは、真ん中に舞台がなかったのでは。
- (事務局) メインホールにはステージが必要なので、ステージは配置している。
- (委員) 左の方に作るという案があったと思うが。
- (事務局) それは遮音シャッターを上げて、一体的に使う際に、前の方に仮設ステージを作る。一階部分よりステージが低くなるので、それを上げることによってステージと客席を同じ高さにあわせる。そしてステージに椅子を並べることによって 3000 名の収容が出来る。
- (委員) 2000 名がよいのか、多目的も入れて 3000 名も収容出来るようにしておくがよいのかというのは私も悩むところだが、可動席というのは他の施設にもあるように、音の問題とかあるので、2000 名にするのか、3000 名にするのかはっきりした答えが出ないが、決着点を付けたらよいのかということで、図面が全体的に変わってくると思う。他の委員から質問があったが、1 階に展示会場があるが、これは何名くらいを考えているのか。イベントホールが

1900 m²くらいあるが、何でも出来るイベントホールになるのか。席でいけばどのくらい入るのか。

(事務局) こちらで椅子を並べ、ステージを組むという話になれば、ステージ部分が必要なので、1700、1800くらいになると思う。

(委員) ここは音楽というのには使えない。展示会、会議室ということなのか。

(事務局) メインは展示会、見本市を考えている。コンサートでは音響的に問題がある。

(委員) 1つのブースは何名くらいか。3つに分かれるとどのくらいか。

(事務局) 3分割すると、400、600くらいが一つのくくりになる。

(委員) 桜町、花畑地区のシンボルプロムナードと広場構想があるが、2階のエントランスが多目的に使えるということだが、シンボルプロムナードに来た人がそこを利用しながら、こちらも一体的に利用するためにコンコースがあるが、このコースだけでは外のシンボルプロムナード、広場が見えないということになるのか。

(事務局) あくまで、通路のため、商業施設の間を抜けていくコンコースとなるので、2階を上がって、商業施設の上に上がってからでないと、広場等は望めない。

(委員) 最初に位置的なものが出ているが、MICE から広場が見える、外でこういうものがやっている、そこに来て、私もよくいろんな会議に行くが、そこで目的を達したら、そのまま帰ってしまうことが多い。せっかくシンボルプロムナードと広場を作るので、お城だけでなく、そこを見えるようにして欲しいという要望はある。まだ外観とかは先になるだろうと思うが。

(委員長) 先ほどの意見と同じことと思うが、位置的にもう少し表に出ないかという意見だと思う。出来るだけ視認出来るのがお互いよいと思う。ただ、市民会館を見ていただくとよくわかるが、開催前は人がいて賑やか、終わった後も賑やかだが、開催時は実は閉じられてしまっていて、外から見るとあまり賑わいを感じられないところもある。そういうところから、前面に出にくいというところがある。アプローチをどれだけ魅力的に作っていくのが、その辺りで工夫がいる。あと、南側の通りから直接行けるため、その辺りの工夫でいくのかと感じている。

(委員) 今後の検討でお聞きしたい。先ほども質問が出たが、コンベンションが主なのか、市民会館的な文化施設的なものが主なのか、合わせて交通センターの機能の話があったが、今後論議していく上で何を主としていくのか考えを聞かない。

(局長) 何を主として検討していけばよいかという基準のお尋ねだが、MICE ということで、コンベンションも含まれるが人が集まる集会系、コンサートという文化イベントも MICE に含まれるため、私どもとしても悩んでいる。悩みど

ころであり、いろんな人が集まるものは全て大事という考えでいる。他の委員が言われたようにコンベンション施設を作るために必要な機能というのが最初の出発点になる。ただ、同時にコンベンション対応の 2,000 席のホールを作る、かつ、コンサートであれば、コンサートとしての機能もある程度考えていかねばならない。どちらの方向も大事だということ。

(委 員 長) 今のご質問、発言もあったが、この会議として、案を整理してはどうか。今日は A、B、C、D 案が示されて、また、E 案がまた来るということだが、次回に向けて案を絞り込んで、再度詰めて頂いてはどうか。まず最初に A 案が基本形ということで、以前からのものに近いものということで提案された。これの持っている特質は、メインホールの舞台の後ろに 1000 m²の多目的ホールを置くことにより一体的に利用できるということで、提案に近いものとして示された。ただ、この場合、メインホール自体がかなり厳しい状況にあつて、運営がしにくそう、あるいは出演者にとって使いにくい、来場者にも使いにくいというのがある。また、私の方で指摘させて頂いたが、一体に使うと言ってもあまりにも縦に長すぎる。舞台まで 50 数 m になる。やはりあまり機能しないのではないか。使いにくいのではないか。そういう感じがする。そういう意味で、今後も引き続き、メインホールと一体になるようなものを残すかどうか。ご議論いただきたい。あとは多目的ホールを設ける案が、A,B,D 案、断念するというのが C 案だが、多目的ホールが、確保すべきだという意見があったと思うが、その辺りについてもご確認いただき、B,C,D を絞りたいと思う。まず、A 案だが、今のように舞台の後ろに一体的に利用するとなると、どうしてもそうなるが、この案を今後も維持して、残して検討すべきかどうか、ご意見を頂きたい。前提条件としては、メインホールが 2000 人、固定席 2000 となっているが、舞台を動かすことで、補助席というか、パイプ椅子を置くと思わない方がいいが、プラスアルファするという前提で、メインホールのキャパを出来る限り増やすことを前提で、A 案を残すかどうか。ご意見を頂きたい。

(委 員) 今のプラスアルファというのは、具体的にどのくらいになるのか。舞台に可動椅子を置くと、2000 何百までいくのか説明してほしい。

(事 務 局) メインホールについては、1 層に何席置いたら何人確保できるかは、その点については、具体的に進めていないが、今のところはプラスアルファという表現しか考えていない。ただ、ステージの奥行きが今は 10 間あるので、それをステージを何間にするのかで若干変わってくる話になるので、プラスアルファの表現しか今は出来ない。

(委 員 長) なかなか、行政の立場では確たる数字は言いにくいのだろうが、これが 2050

なのか、2100なのか、あるいは2500くらい考えられそうなのか。その辺りのオーダーを。厳しい質問だが、それが無いと判断しにくいところがある。それでは、建築家の立場からはどうか。

(委 員) 2500くらいと思う。ただ、数は取れても視認距離の問題がある。33m くらい超えると、ほとんど見えない、何をやっているか判らない。使いにくい。多目的ホールを舞台にした場合は、ホールのフライタワーの天井高が全然ないため、やることに非常に制約が出来て、せいぜい講演会、何か表彰するときの舞台とかくらいしか使えなくなってしまう。

(委 員 長) 今のお話はA案の話か。

(委 員) A案です。

(委 員 長) 天井が低いというのは、裏に作った場合。

(委 員) 数が2500取れたとしても、それほどの効果が本当にあるかという疑問がある。

(委 員 長) B案以降で、メインホールがどのくらいキャパを上げられるだろうか。

(委 員) それでも2500です。2500がリミットと思う。例えば、栈敷で周りにまわすとか、あるいは2階3階席をもう少し頑張って取るという努力は出来ると思うが、頑張って2500と思う。

(委 員 長) 少なくとも2,000人ホールよりも、何百のオーダーでは増やす努力はできるのではないかという委員としての見込。そういう意味でA案作ったとしても実を言うと天井高が取れないので、たいしたイベントは出来ないのではないかというご指摘もあった。そういう意味では多目的ホールを別のところに作って、MICEとしての機能は確保する。一体的に使うというのは現状では結構厳しそうだということで、A案の考え方はこの委員会の検討から外してよろしいか。

(委 員) 私も、委員長がおっしゃったような形で、やはりちょっと無理かな、困難かなという感じがする。かといって多目的ホールをどうするかという問題が関連してあるので、先ほどからお聞きしながら、やはり他の委員が提案されたように、このメインホールは若干増やして、そして多目的ホールを、2階のエントランスホールをうまく活用したらどうか。そういう形である面で費用も抑えながらやった方がいいのではないかという感じがする。これもむしろ建築、あるいは他の委員が話されたように、そういうことではコンベンションホールとしての一体感が損なわれて、極めて困難だ、難しいということであれば、さらにまた考える必要があると思う。市当局の話聞きながら、メインホールは若干増やししながら、コンベンションのいろいろな催しと同時に、文化関係のホールも併せて兼ねたいという意向もあるようなので、そういう

点では、2,000名程度を若干増やしながら、多目的ホールを2階のエントランスホールにうまく持ってきたらどうかという感じがする。その辺の具体的なことは専門的な分野と意見調整しながら考えていったらどうかという感じがする。

(委 員) 先ほど他の委員が言われたように、運営側の利便性を高めないといけないと思う。実際ステージの裏に多目的ホールを作ること自体が、非常に無理があると思う。なおかつバックヤードの楽屋の広さとか、その辺が全然確保できないので、いわゆる使い勝手の悪いホールになってしまう。2階を多目的スペース、ホールにするという案があるが、例えば2,000のメインホールでジャニーズ系のアーティストがやった場合に、昼夜2回講演というのがある。2,000名が入るためのアプローチが2階のホワイエになると思う。終演後は次の2,000名が来るスタンバイのスペースと、終演後の2000名が帰るスペース、いろんな動線があると思うが、そこで例えば物産展なり何なりがあっていると、人の流れとして非常にぐしゃぐしゃな形になる可能性が高いと思う。私はD案をすごく推薦するのだが、例えば3,000キャパの国際会議の場合は、多目的スペースに映像入れて、リアルタイムで、同じ空間は味わえないものの、共有した会議ができるんじゃないかなろうかと思って、私はD案を推薦する。

(委 員 長) 私は多目的ホールを舞台の後ろにおいた案がA案という話をしていたが、A案とB案も一緒ですね。資料4のB案の図面をお開きいただきたい。これをご覧いただくと、舞台があって、裏に多目的ホールが一応確保されていますが、依然として今おっしゃられたような、動線処理、客待ちがどうなるのという話もある。実はB案というのは致命的な問題がある。何かと言うと、楽屋がなんとか面積は確保しているが、上手の裏の方に長屋のごとくあるということで、舞台からの動線がものすごく長い。出演間際バタバタしている出演者たちにはとても耐えられないものであるということと、もうひとつ大変な致命傷があり、楽屋が上手に用意されている。普通、ホール設計は下手の方にメインの出入りがあるように設計していくのではないかと。大体舞台の演出も下手から大きなものの出入りをする、もちろん上手も使うが、そういう演出になっているのが一般的。逆のホールを作ると演出を変えないといけないから大体は嫌われるといったこともある。多目的ホールを舞台の裏に置くために何とか処理しているのだが、結構厳しい状況になっているようだ。そういう意味では、私のほうからの提案でもあり、今皆様の方のご意見もそのような形になってきたかと思うのだが、C案とD案どっちかと言うと、できればD案のほうが良いんだらうと思うが、最終的には費用の判断も出ると思うので、C案とD案を今回の委員会としては残して、これにE案を組み合わせた

バリエーションを考えていただき、第3回の委員会に諮らせていただければと思う。そのときにいわゆる開催の可能性であるとか集客力いわゆるコスト計算も併せて出していただくということかどうかと思うが、いかがか。

(他委員) はい。

(委員長) そうしましたら、今回の委員会としては、C案D案を検討の課題として採択し、なおかつE案ということになるが、イベントホールを地下に、メインホールを1階に配置するとどうなるかという案。C、Dの多目的ホールの扱いの違いになるが、それで案を作っていただいて、コスト計算であるとか収益性のデータも加えて、3回目の委員会を開かせていただく、そんな形で進めさせていただきたいと思う。

(委員) 確認なのだが、この案でいくと、完全に3000人に関する検討は除外するということか。

(委員長) このままだと、メインホールは2000数百まではいけるだろう。ただし、当初考えていたような2000+1000というのは断念する。

(委員) 数にこだわるわけじゃないのだが、今委員おっしゃったように、そもそも今回の発想をするときに、現在は大規模コンベンションに対してなかなか対応できない。大規模コンベンションの数自体そんなに多くあるわけじゃないと思う。しかし、これだけのものを政令市になって作るということであれば、都市機能の核というものからしても、ある程度の一体的に使えるような形のものを持つということは、3,000名とか4,000名にこだわるわけではないが、その必要性というのは、それで当初の計画はホールと多目的を一体的に使える、可動的に使えるという形で設計をして、基本構想にもそういう形で載ったのだと思う。それが逆にほとんどその部分が難しい、あと500程度の上乗せだということになると、ちょっとどうなのかなと、コンベンションの開催をやっている人間としては非常に厳しいかなという気がする。それで1点だけ確認したいのは、多目的ホールをなくすと、舞台の裏には作らないとなると、950㎡が浮いてくる。先ほど他の委員がおっしゃったように、席も増やせると、構造変えて、そうすることで2,000席というのが3,000席になるということは無理なのか。舞台上に設置するということがあったが、無理なのかどうか。グランメッセの展示ホールがあるが、あそこも相当広い。コンサートだったら出演者の顔が見える形というのは希望されるが、コンベンションというのは3,000人とか5,000人とかが一堂に会するというのは、ほとんど総会。そういう場所というのは声で聞いて議事を承認したりとか、そういう話であるから、特別に顔が見えたりとかいう必要性はない気がする。私としては、3,000名という1つの目標として掲げたものはやはり実現した

方がいいじゃないかと思う。もう 1 点皆さんに話しておきたいのは、コンサートは開催しても宿泊はほとんど伴わない。コンベンション開催は最低 1 泊、多い人は 4 泊、5 泊という非常に経済効果が大きい。これは後ほど議論がまたあろうかと思うが、そういう意味から交流人口を増やして、熊本を活性化していこうということであれば、そういうものを目指して来たことからすると、その核というのは確保する要素はあるんじゃないかなという気がする。コンサートは、ほとんど宿泊はないのではないかな。コンベンションは観光よりも倍の経済波及効果、観光消費があると言われているので、そういう要素も判断材料の中に入れて、ここまで作るわけだから、是非その辺は配慮する必要がある気がする。

(委員長) 私の整理の仕方がちょっと悪かったかもしれないが、いわゆる 2,000 人ホール、裏側に多目的ホール、くっつけて 3,000 という考え方は今回あきらめましょうと。メインホールは先ほど 2,500 ならいけると言ったのは、あのホールの大きさをやろうとすれば 2,500 が限界かなという話であったが、もう少し設計を見直していただくと、メインホールをもう少し大きくすることも、設計としてはまだ余地はあるような気がする。当初の目標に近づけるようなことも考えてみてはどうかという。

(委員) さっき 2,500 と申し上げたのですが、平面形状を広げるのは難しいとして、例えば断面ですね、メインホールの上部にすごく天井懐がある。多少オペラシアターみたいになってくるのですが、上をもっと活用して、何とか 3,000 を入れるというのは、検討してみる価値はあると思う。あるいはもう 1 つ、ウルトラ C としては、ホールとホワイエの間の壁を可動にして、ホワイエと一体化してしまうというホールもある。ホールも使って大きく使うこともできるという形式も現実にあるので、そういう意味では何とか 3,000 いけるかどうかという検討はまだ捨てないでやる価値はあるかと思う。

(委員) 実際に愛媛県民ホールというのは 3,000 席、5 階席くらいまである。さきほど私は 2,000 でいいと言ったのだが。市の方にもお伝えしているが、5 階席まで作れば 3,000 キャパ取れると思う。通常は 2,000 でいいのだが、コンサートは例えば 3 階席 4 階席は閉じて使い、2,000 席の使用料でお支払いをするという案も、無きにしも非ずかと思う。

(委員長) ありがとうございます。いろいろ可能性についてご提案いただいたところかと思う。少し建築の設計の工夫をする中で、できるかぎり当初の目的に近づける、あるいはホワイエと一体化する、そういうものも可能ではあると。そうなるともっと大きくなるかもしれないが、少しそのあたり建築的なことを検討していただくと。ただ舞台の後に多目的ホールを置いて遮音シャッタ

一を置いてというスタイルは今回の検討から外していくということで進めさせていただきます。それでは、そういう形で、事務局の方で E 案と呼ばれるものも含めた案をご検討いただき、またお諮りするということにさせていただきます。それでは、C 案 D 案をベースにとということで、皆さんの意見をいただいたので、第 2 回の審議をこれで閉じさせていただきたいと思うが、その前に今後の案内等、事務局の方から事務連絡をお願いしたい。

4. (事務局) 事務連絡

5. 開会